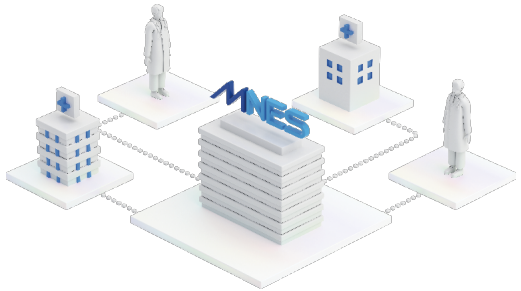
病診連携 / 地域医療連携

医療連携はなぜ進まない？
画像共有の課題と解決策ガイド

- ☑ 医療連携における課題
- ☑ 医療連携での導入事例紹介



LOOKREC
ルックレック

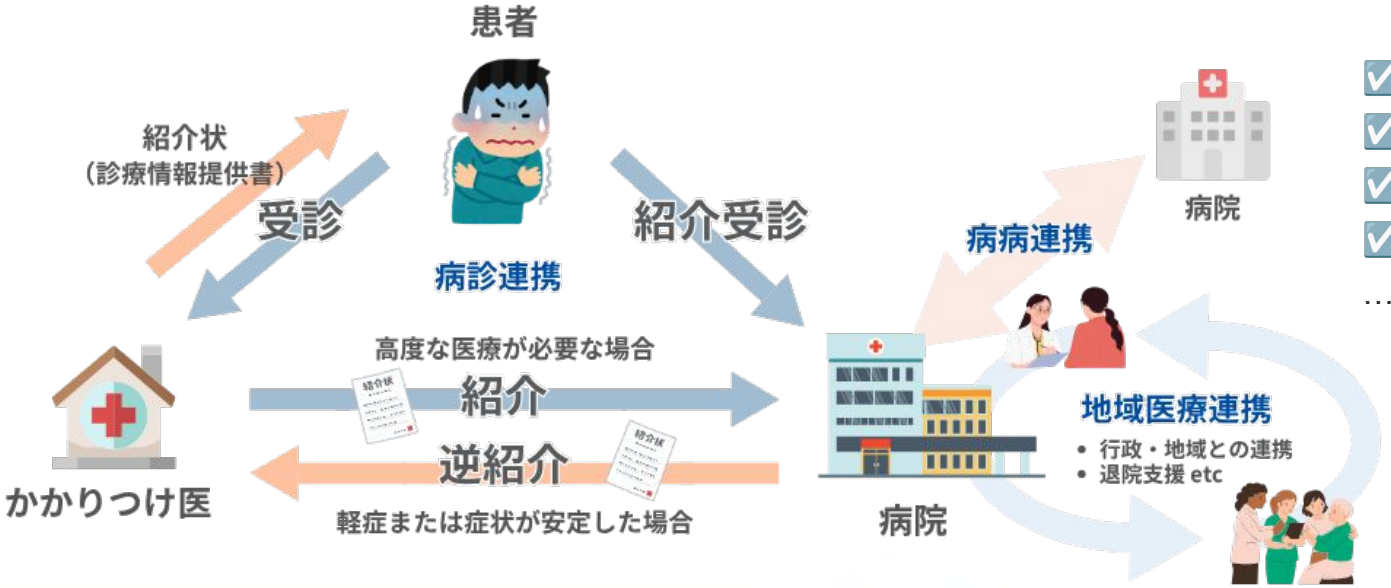
目次

1. 医療連携における課題
2. クラウド型 DICOMデータプラットフォーム「LOOKREC」とは？
3. 「LOOKREC」医療連携 の導入事例
    - 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮
    - 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進
4. 導入の流れ・サポート
5. 無料体験・お問合せ
6. 会社概要 - エムネス

医療連携における課題

地域医療連携の全体像

医療連携には様々な要素で構成されており、質の高い地域医療の実現には病院同士の連携が不可欠。医療機関間のデータ共有や連携をいかにスムーズにするかがポイントになります。



- ☑ **診療情報・医用画像の連携**
- ☑ **紹介・逆紹介のフロー設計**
- ☑ **医療機関同士の関係性**
- ☑ **予約・受診調整**

…など複合的な連携が必要！

医療連携によるメリット

かかりつけ医からみたメリット

メリット1　想定を超える疾患でも心強く対応が可能になる

専門外の症状でも病院と連携することで、自信を持って医療対応ができるようになります

メリット2　高額な先端医療機器を構えずとも治療の幅が広がる

MRIやCTなど高額な医療機器を自院で構えずとも、患者に提供できる治療の幅が広がります

病院からみたメリット

メリット1　非効率性を見直して、高次医療に専念できる

病院でしか行えない治療に専念することができ、運用の効率性を見直せます

メリット2　コミュニケーション不足による医療ミスを減らせる

重複検査や不要な投薬を防ぐことができ、患者の身体的・経済的負担の軽減にもつながります

スムーズな紹介・逆紹介が可能となり　切れ目のない医療の提供　、
診療情報の共有により質の高い医療提供が可能となり、　地域医療のレベルの維持　に繋がる！

それでも医療連携が進まない要因

医療連携の重要性やメリットは広く認識されている一方で、現場では「思うように連携が進まない」という課題が残っています。医療連携が進まない要因は以下のことが挙げられます。

要因 1

医療情報共有の地域偏在や人員不足

連携を支える人材不足は深刻な課題です。特に地方や過疎地は深刻な医師不足傾向が顕著なケースも

要因 2

紹介元や紹介先の病院情報が不透明な場合がある

診断の不確実さなど情報の不十分さがあると、円滑に治療を進めることが難しいことも

要因 3

情報共有システムの浸透不足・アナログ運用

アナログな情報管理による情報の記載ミスや送り先の書き間違えなどの人的ミス、
データの紛失や盗難が起こることとも

医療連携のボトルネックはどこにある？

地域医療連携は複数の要素によって構成されています。その中でも **画像をはじめとする情報共有のスピードは、診療の質に直結する重要な要素** です。一方で現場では、画像共有においてアナログ運用が残っているケースも多く、結果として連携全体の効率に影響を与えている場面も少なくありません。

以下は当社独自で地域医療連携に関する調査を実施した調査結果です（ 結果の詳細 ）

地域医療連携や情報共有のために利用しているシステムやサービス（n=301）

1位 CD-R・USBなどの物理媒体（n=71）

2位 クラウド型電子カルテ（n=63）

3位 オンプレミス型PACS（n=63）

▶ アナログ共有が根強く残る結果に

地域医療連携を推進するにあたり最優先で取り組みたい項目（医療機関規模別の最多回答のみ抜粋）

クリニック	自施設のインフラ・ネットワークの未整備
中小病院（~200床）	人的リソースの不足
中規模病院（201～499床）	セキュリティや権限管理
大規模病院（500床以上）	連携先とのシステム非互換・仕様の違い

医療連携時の画像共有における課題

現場では各要素が部分最適で運用されているケースが多く、連携全体としては非効率な状態になっていることも。特に画像共有においては以下のような課題が残ります。

課題1

アナログ運用による連携の非効率

CD-ROM等への作成・管理の手作業や受け渡しに時間がかかり、診療スピードにも影響

課題2

セキュリティリスク

物理媒体の紛失や情報漏洩のリスク

課題3

システム非互換

医療機関ごとに環境が異なることが多く、スムーズな情報共有の難易度が高い

▶️ 個々の改善ではなく、画像共有の仕組みを根本的に見直す必要あり

解決に必要なのは… ☑️ リアルタイム性 ☑️ セキュリティ ☑️ 医療機関間での互換性

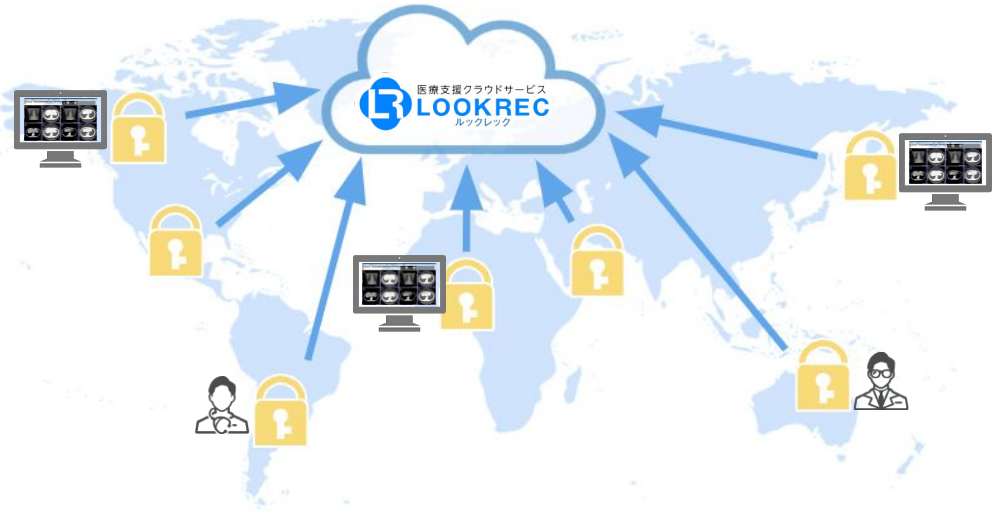
課題解決のカギはシステムの「クラウド化」！

データ共有も業務効率の向上も「クラウド化」で実現！

- タイムラグがなく、リアルタイム共有 で円滑に治療を進められる
- 手動のバージョンアップ不要で 常に最新状態のセキュリティ を保てる
- データ共有のデジタル化により 情報の転記ミスや伝達ミスなどが減る
- CD-ROMを焼くなどの手間や時間が省けて 業務効率化 が図れる
- 郵送作業がなくなり データの紛失や焼き間違いなどの心配が無い
- クラウドなら データ保管がかさばらない

クラウド型 DICOMデータプラットフォーム
「LOOKREC」とは

クラウド型 DICOMデータプラットフォーム「 LOOKREC」



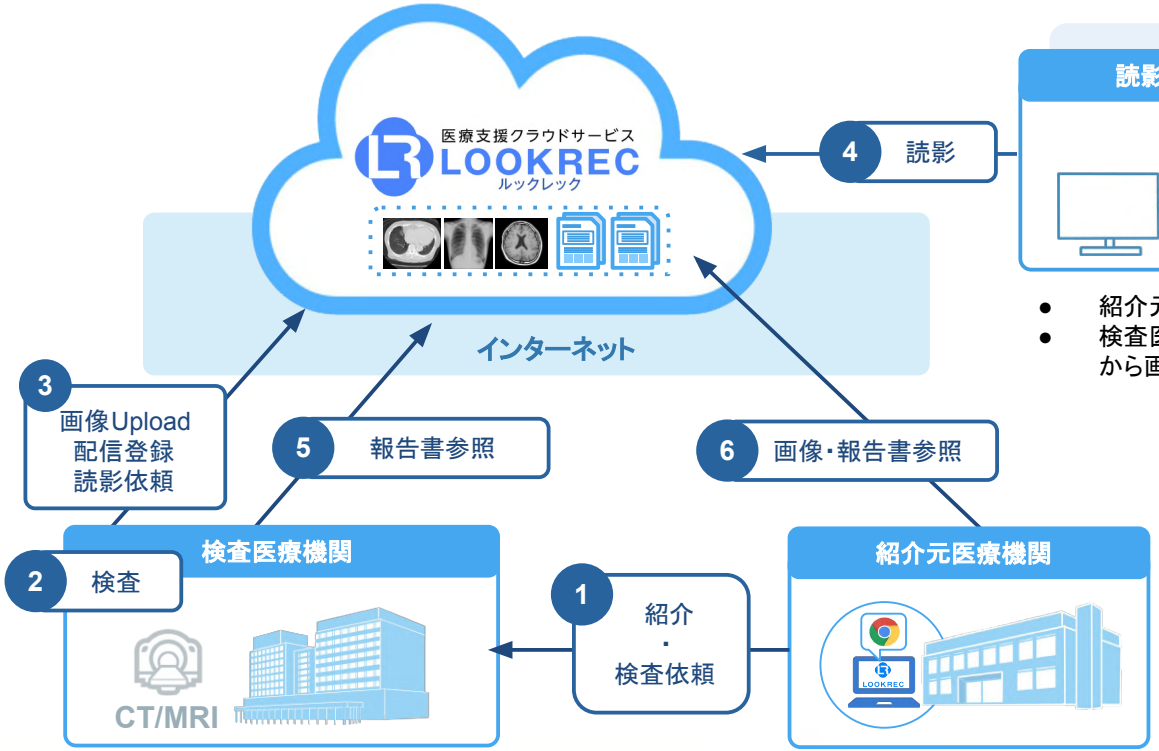
LOOKRECとはクラウド上に構築された医療データ（検査画像・レポート等）を保存・参照するためのプラットフォームです。

クラウドを介して院内・院外の医療関係者をつなげるので、その使い道や可能性は無限大！

※ビューア ソフトウェア
医療機器販売名： ルックレック
医療機器承認番号： 227AGBZX00096000

クラウド PACSとして	地域医療連携 ・病診連携に	遠隔画像診断 プラットフォームとして	勉強会・学会の 症例共有に

検査画像やレポート配信、夜間・休日の画像共有に



LOOKRECなら
夜間・休日に院外の医師と検査画像を共有することも可能です

- 紹介元医療機関を登録
- 検査医療機関での検査実施と同時に紹介元医療機関から画像・報告書閲覧・ DL可能

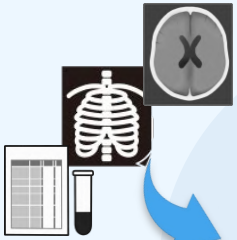
遠隔読影プラットフォームとしてはもちろん、医療機関で実施した検査の画像・診断報告書を、紹介元医療機関へ紹介患者様のデータのみ配信可能。また夜間・休日の検査画像を院外の医師と共有できます。

LOOKRECの基本4機能

医療機器販売名：ルックレック
医療機器認証番号：227AGBZX00096000

ためる

○ 検査画像
（DICOM:CT・MR・CR… 病理）



記録する

○ レポートシステム
レポートデータ
（放射線・病理）
（胸部・胃部健診）

医療支援クラウドサービス LOOKREC ルックレック

見る

○ 画像ビューワ

検査データ　診療データ

共有する

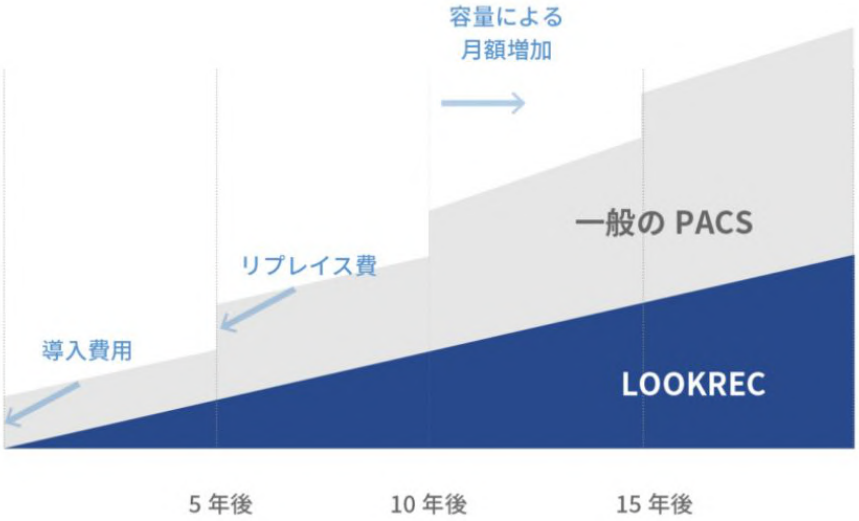
○ 検査データ共有

・画像配信　・コンサル機能　・データ連携（AI・分析）

LOOKRECならコスト削減＆運用負荷が軽減 が叶う！

初 期 導 入 費 用 が 低 コスト（※）＆リプレイス（更新）費用なし

トータルで大きなコストメリットを見込めるうえ、更新の手間も省けます



クラウドだからこそ！ストレージ容量の心配は不要＆端末故障時も安心

バックアップも自動で対応！サーバ増設の必要やデータ消失のリスクもありません

端末故障による交換も容易で診療を止める必要がありません

※導入時に訪問を伴う対応が必要な場合、別途費用が発生する場合がございます。

安全なデータアクセスを実現するセキュリティ

医療機器販売名：ルックレック
医療機器認証番号： 227AGBZX00096000

データセンターのセキュリティ対策

・GoogleCloudPlatformを採用。
・セキュリティ技術／専任チームによる
不正アクセス等からの防御。
・データは冗長化および暗号化され保存。
・GoogleCloudは各監査に対応済み。
SSAE16/ISAE3402Type Ⅱ (SOC1/SOC2/SOC3),
ISO27001 , ISO27017 , ISO27018
・HIPAA準拠

不正ログイン対策

・LOOKRECへのログインは、Gmailと同じ
Google認証基盤を用い認証機能を強化。
・ワンタイムパスワード等の**Google二段階認証機能**によるアクセス認証も可能。

データアクセス権限制御

・**アクセス権限があるユーザのみ**
LOOKRECへログインが可能。
・**ユーザ単位での参照／編集権限設定**可
・**ログイン後の追跡管理実施**

通信内容の盗聴、改ざん対策

・データはSSL/TLS技術で暗号化通信
されます。

エムネスのエンジニアリング本部体制

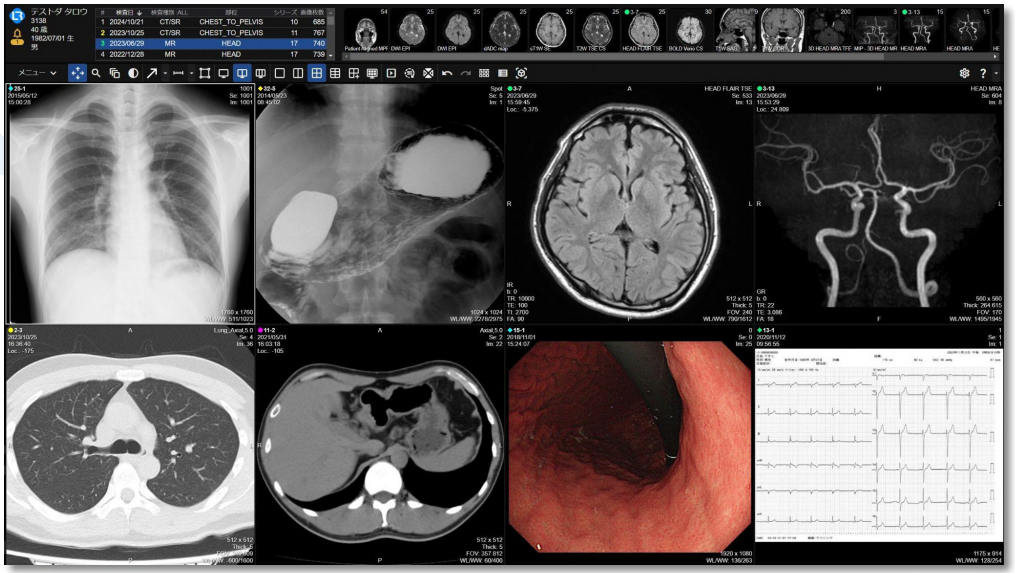
・国際規格に基づくISMSクラウドセキュリティ認証を取得しました（2021年5月）

LOOKREC 汎用DICOM Viewerはクラウドでもくっきり！

LOOKRECはカルテからの画像呼び出しや、ワンクリックでの過去画像比較・キー画像表示なども可能です。**3Dビューア**もオプションでご用意しています。

カルテor一覧から画像呼び出しが可能

CT	MRI	エコー	内視鏡
CR	DR	病理	その他 DICOM



LOOKREC共通オプション機能

MWM連携

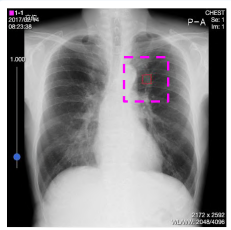
検査装置に入力する患者属性情報がMWMを通し、**電子カルテとの連携が可能**になります！インターネット環境さえあれば連携可能です。

3Dビューア

特別なソフトやワークステーションがなくても動作する3Dビューア。直感的に病変や位置情報を捉えやすく、患者への説明もスムーズに！

画像診断支援AI

エルピクセル社の画像診断支援AI・EIRL Connect（Chest Nodule・Chest XR・Brain Aneurysm）が利用いただけます。見落しを防ぎ、診断の質をさらに後押しします。



EIRL
PRODUCED BY LPIXEL

登録施設数、どんどん増えてます！

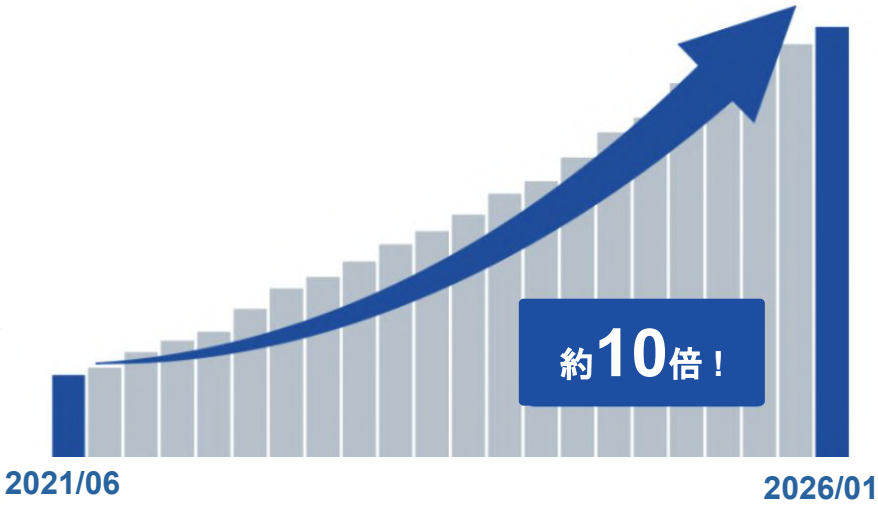
2021年から10倍以上に増加！

導入実績 全国で1,700施設突破

※2026年01月時点

2021年から導入施設数は約**10倍に伸び**ています。
医療DXの影響もあり**クラウドの需要はこれからも伸びていく**と思われます。

施設数が増えていくことで、病病連携や予防と治療の連携など、**他施設との連携がよりスムーズに**行えます。



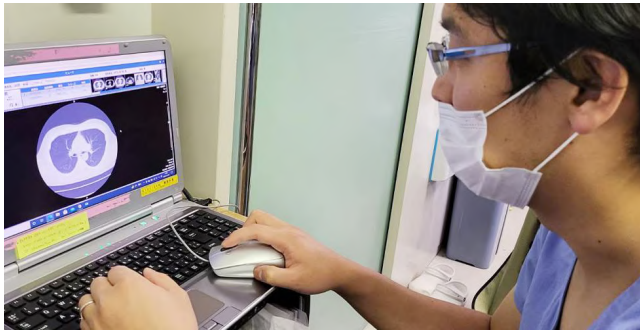
クラウド型 DICOMデータプラットフォーム「 LOOKREC」

医療連携の導入事例

事例① 仙台厚生病院

チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮



仙台厚生病院 様

【専門】消化器
【業種】中核病院
【お話をお伺いした方】齋藤先生
【課題】地域の病院との連携をどう図るか

こちらの QRコードからも
詳細な内容を
ご確認いただけます

✔ **導入背景**

緊急疾患が発生した場合に円滑に紹介いただくため、治療戦略のディスカッションをスムーズに行うため

✔ **導入の決め手**

LOOKRECは安価ですし簡単ですぐ使えた。画像があるからこそ分かることは非常に多い

✔ **導入後の効果**

コンスタントに患者さんを紹介いただいている。病院に到着して最短40分でオペを始められるケースも

事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

仙台厚生病院は循環器、呼吸器、消化器に選択・集中している中核病院。近隣地域での緊急疾患が発生した場合に円滑な紹介をすべく、LOOKRECをご活用いただいています。

画像があるからこそ分かることは非常に多い

例えば脳梗塞やくも膜下出血でも専門の先生でないと結構わからないんですよね。本当にくも膜下出血なの？ということもあります。

また、くも膜下出血なのはわかるけれど、すぐに治療が必要なのか、それともそうじゃないのか。あるいは**治療戦略としてはどういうことを考えられるのかが、画像を持っていればある程度目処がつけられます。**

同じようなことを循環器とか私の専門の消化器でもあるので、**画像をそのまま共有してもらえると、これは診断確定で間違いないと確信を持って受け入れられる。いろいろな治療の準備ができる。これはすぐに治療が必要だとか、治療の戦略はこれというものが立てられるというメリットがあるんです。**

事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

■LOOKREC導入後の効果

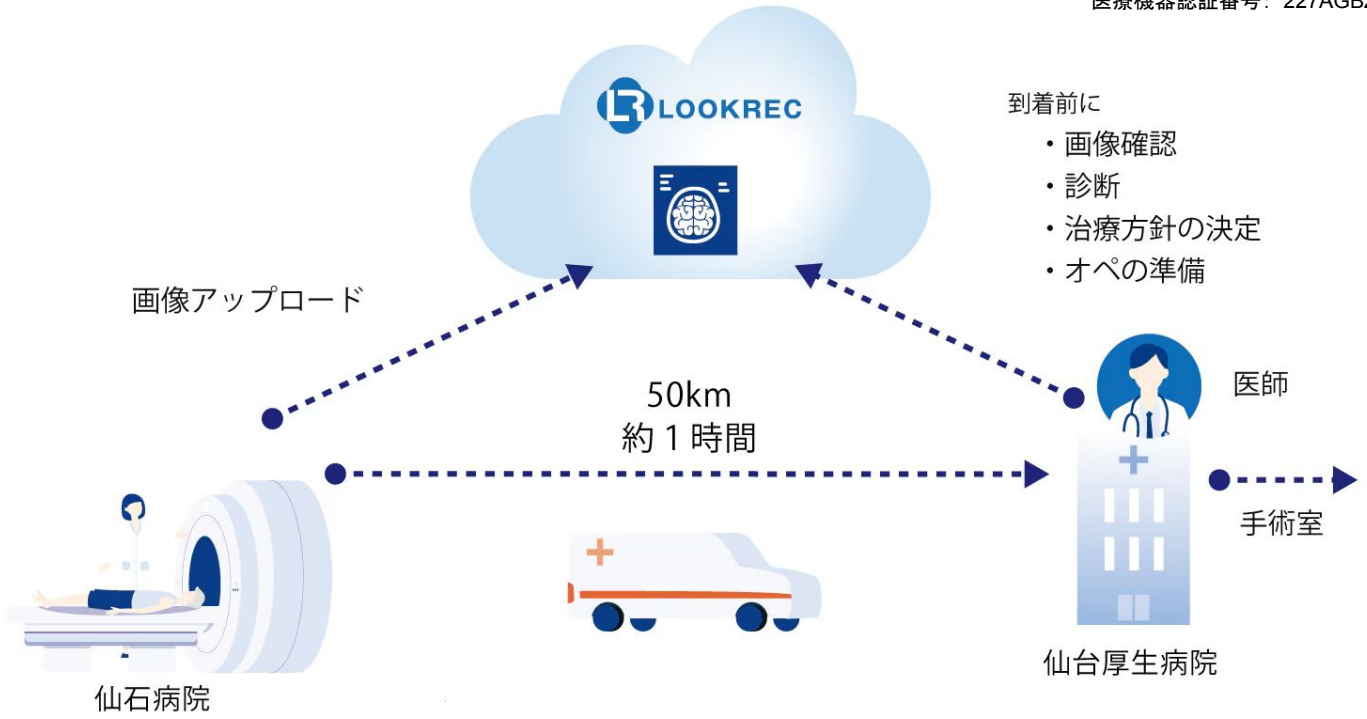
病院に到着して最短40分でオペを始められるケースも

高速道路を使っても石巻から仙台まで1時間くらいかかるので、その間に画像確認、診断、治療方針の決定などができることもあります。実際の救急はとてもゴタゴタしているので理想論ではありますが、**病院到着から最短40分程度でオペを行えるケースもありました。**ただ、インフォームコンセント（手術の同意）を取る必要があるのでそれが最短だと思います。

LOOKRECがないことを考えると、患者が病院に到着して、そこで他の病院で焼いてきたCD-ROMを取り込み、CTの画像を見て、その場でドクターが手術が必要が判断し、外科の先生にも判断を仰ぎ、これは手術しようとなってはじめて病棟にあがって段取りします。看護師や夜中だったらスタッフをそこから呼び出します。それを、**到着前に画像情報にアクセスすることで手術までの時間を大幅に短縮する、ということを目標にしてやっています。**

事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

医療機器販売名：ルックレック
医療機器認証番号：227AGBZX00096000



事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

救急以外でも、画像があることで治療戦略のディスカッションができる

救急だけではなく**消化器内科でもよく画像のやりとりはしています。よく紹介いただくのはすい臓がんとか胆管がんとか、高度に専門的な治療が必要な疾患です。**

放射線科の先生が診断した後、治療するとなったときの目線で、こういう風に内視鏡の治療ができるという**次のステップの意見が画像があるとすぐに言えます。**だからよく相談をいただくのが、黄疸で体が真っ黄色になってしまってCTとかの写真を共有してもらうようなケースですね。多分ここにがんがある、結石が詰まっている、ということをディスカッションします。**その日のうちに来た方がいい状態なのか、スケジュールを考える余裕があるのか、ディスカッションできます。**このディスカッションするのにも、画像がない状態で言葉だけで説明されても全くわからないので、**画像がないならとりあえず来てくださいとなってしまう**んですよ。

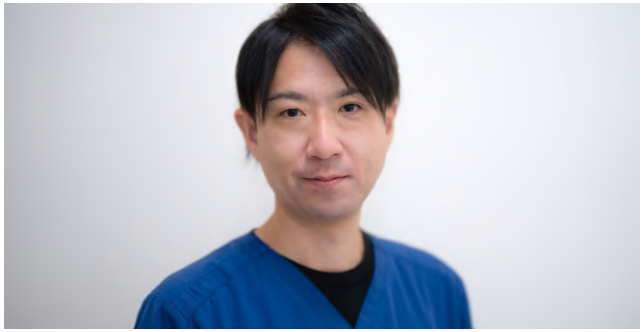
仙台厚生病院では画像をLOOKRECで送ってもらうのが常態化していて、胆管の疾患のようだったらすぐに画像を見て、これなら待てるから来週頭の転院にする、などの判断に使ったりしています。仙台厚生病院のメインの診療科である循環器、消化器、呼吸器でLOOKRECは使っています。

「地域医療連携というと各地域でそれぞれのネットワークを作っているようですが、導入が大変だったり、コストがかさむと聞いています。その点、LOOKRECは安価ですし、簡単ですぐ使えました。」ともお話しいただきました！

事例② 医療法人社団健心会　みなみ野循環器病院

クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進



医療法人社団健心会
みなみ野循環器病院　様

【専門】循環器内科中心の単科病院
【お話をお伺いした方】
放射線技術部長 兼 診療放射線技師長
望月 純二 様

こちらの QRコードからも
詳細な内容を
ご確認いただけます

✔ 導入背景

近隣クリニックや病院との画像連携をクラウドを使って、もっと手早くリアルタイムに画像連携をしたいと思っていたところ、展示会で声をかけられて

✔ 導入の決め手

Google基盤というセキュリティ面の安心感と紹介元からはお金を取らないという料金システム

✔ 導入後の効果

画像をリアルタイムに共有することで、同じ画像を見ながら相談できるようになった。近隣の先生に相談する際に出向いて頂くこともあったが、移動していただく必要がなくなった

事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

地域のクリニックと連携し、CT患者を受け入れているみなみ野循環器病院。CD-ROMを介した画像共有ではタイムラグや手間が発生することから、クラウドでの画像共有を考えていたところOOKRECを知り、導入いただきました。

Google基盤という安心感と導入しやすい料金システムが決め手

他の会社のシステムも検討しましたが、他社の場合は地域連携の際に紹介元からもお金を取る料金システムが多く、それが導入のハードルを上げてしまいます。当院でも別のシステムを紹介元ととして導入してほしいと言われたこともありますが、あまり件数がないのに月額費用がかかるということからお断りしたことがあります。その点、エムネスの場合は**紹介先である当院での支払いのみでいい**ですし、**サブスクのサービスということで導入へのハードルがとても下がりました**。
また、紹介元は技師がいないところが多いため導入にあたり懸念もありましたが、**使いやすさとGoogle基盤という安心感で、トラブルなく導入まで進めました**。

事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

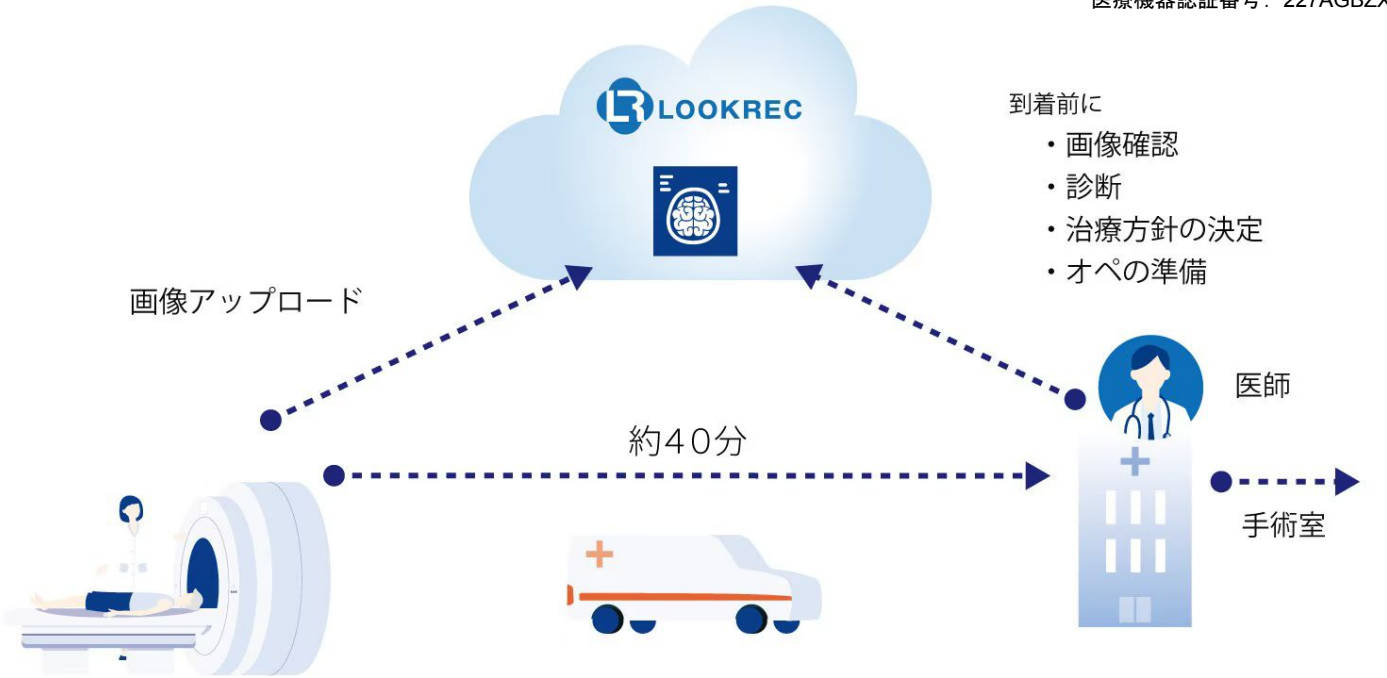
■導入後の効果・満足度

画像をリアルタイムに共有することで、画像を見ながら相談できるのが大きなメリット

LOOKREC導入後は、CD-ROMを使って画像共有していたものを全てLOOKRECを使用してクラウドで共有できるようにしました。1番のメリットは、これにより**画像をリアルタイムで共有し同じ画像を見ながら相談できるようになった**ことです。
当院は循環器内科のため、カテーテル手術はできても外科手術はできません。そのため、車で40分ほどかかるところにある心臓血管外科の病院と連携しています。例えば、血管剥離の患者さんなどを**救急で送る際**、LOOKRECで画像を事前に連携することで、患者さんが到着する前に画像を先生が確認できている状態になっているため**スムーズに治療に入れます**。また、患者さんを送る前に画像を見てもらい、**コンサルをお願いすることも**でき、このメリットは相当あると思います。

事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

医療機器販売名：ルックレック
医療機器認証番号：227AGBZX00096000



事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

画像だけでなくレポートもクラウドでリアルタイムに共有が可能に

容量制限がないため、**過去画像や拡大したものの追加、一般画像、エコー、カテーテルなど多くのデータをまとめて保管しておけるのもメリット**だと思います。アップロードだけでなく、**ダウンロードができるのもいい**ですね。

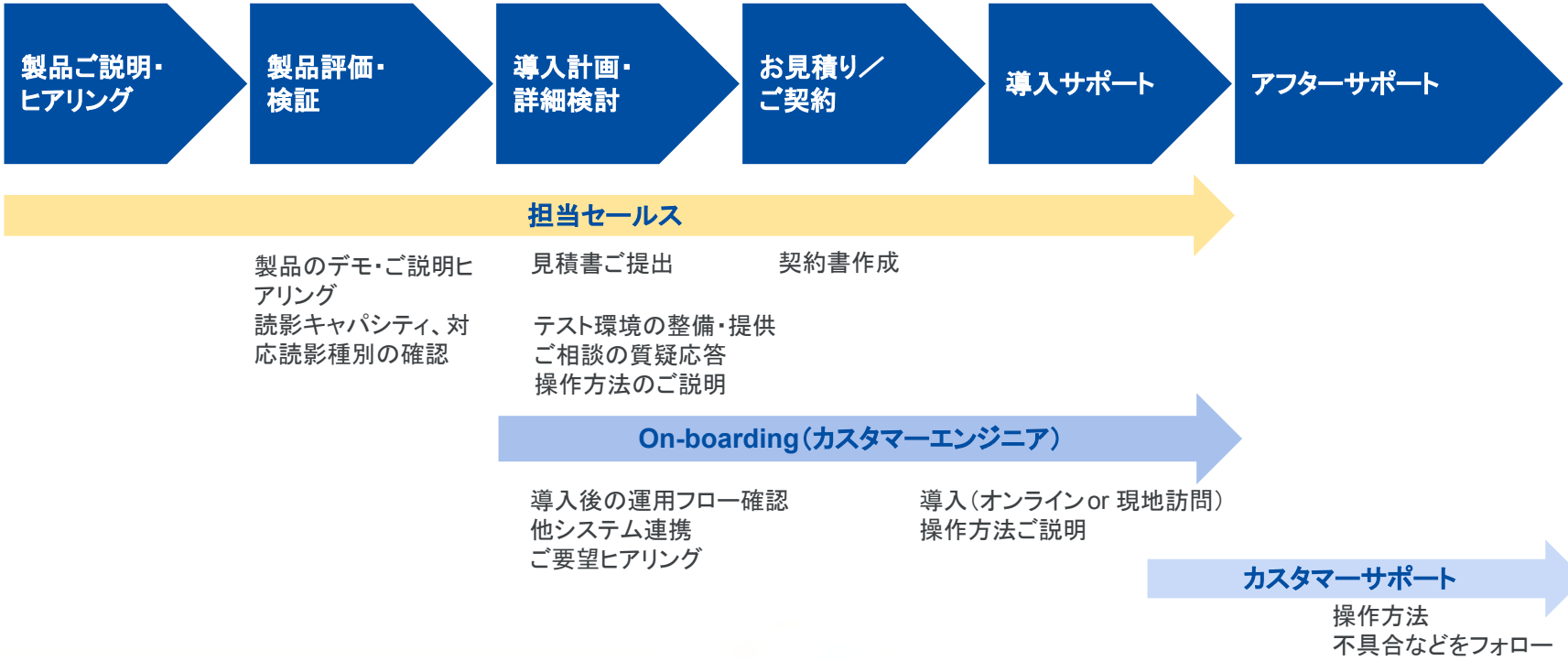
もちろん、CDに焼くという手間もなくなりましたし、**レポートの共有も**後日かFAXだったものが、**PDF化したものをLOOKRECにアップロードするだけで共有できる**ようにもなりました。

ログイン情報が取れるので**セキュリティ面でも安心**で、当院の**先生も院長の反応も良好**です。コンサル機能を使え、呼吸器の先生に来ていただかなくても画像共有できるようになった点もよかったです。

「サブスク（導入費用がかからない）でできるのでやってみて嫌なら辞めたらいいしですしCD-ROMで画像をやり取りしている施設にはLOOKRECをまず試してみてもらいたいです。」
とお話しいただきました。

導入の流れ・サポート

導入の流れ ～Customer Engagement Process～



導入後のサポート

ヘルプページ

導入後に、**改めて操作方法が知りたくなる**ことも。簡単な操作方法についてはヘルプページをご用意しております。

サポートチーム

細かな疑問や不具合については、管理画面から専任のサポートチームへお問い合わせ頂けます。

ウェビナー

参加自由のオンラインセミナーにて、新機能追加時の操作方法や**読影時のよくある課題**を解説します。

お役立ち情報配信

経験豊富な放射線診断専門医や放射線技師による**ライフハック**やセキュリティ対策など様々なテーマでお届けします。

無料体験･お問合せ

お気軽にお問い合わせください

まずは無料でお試し

こちらのトライアルお申込みフォーム より、必要事項をご記入後送信ください。
LOOKRECのお試しアカウントが発行され 1ヶ月間、無料でお試しいただけます。

お問い合わせ

詳しいお見積もりや、ご利用条件などお気軽にお問い合わせください。
担当者より折り返しご連絡させていただきます。

メール：marketing@mnes.org

会社概要 - エムネス

ミッション＆事業紹介

MISSION

身体の状況をありのままに正確にリアルタイムに伝え世界中の医師や
医療従事者が連携して、患者のために理想の医療が提供できるようにすること

Medical
遠隔画像診断グループ

放射線診断専門医　常勤約10名
その他専門医　非常勤医約70名

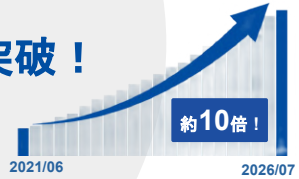
北村 直幸
1993年広島大学医学部卒業、
放射線診断専門医。
2000年に遠隔画像診断センター
「エムネス」設立、
「霞クリニック」院長を兼務。

×

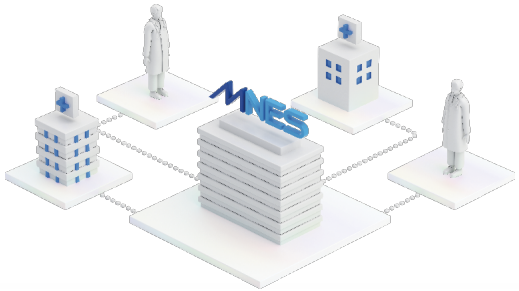
医療支援クラウドサービス LOOKREC ルックレック

Technology
医療支援クラウドサービス

LOOKREC
導入施設数　※2026年07月現在
2,000件突破！



阿部 伸一
Google のクラウド事業において
日本法人の代表を9年間
務めたのち2020年4月に
エムネスの代表取締役に就任。

会社概要

会社名	株式会社エムネス
所在地	広島オフィス（本店所在地）/ 広島画像診断センター 〒734-0023　広島県広島市南区東雲本町 1-2-27 東京オフィス 〒105-7508　東京都港区海岸 1-7-1　東京ポートシティ竹芝オフィスタワー　8F
設立	2000年10月10日
代表者名	代表取締役社長　阿部　伸一
事業内容	医療支援クラウドサービス「 LOOKREC」 独立放射線科医/独立病理医開業支援 遠隔画像診断サービス、遠隔病理診断サービス CT/MRI撮影技術指導、医用画像機器導入コンサルティング 医療機器販売/貸与